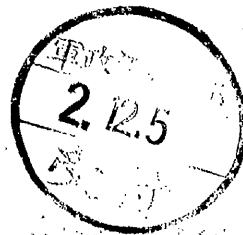


建設途上の満洲國

第四輯

昭和八年十一月
關東軍參謀部



1658

建設途上の満洲國

(第四輯)

目次

一、事變二周年を迎へて所懐を述ぶ……………	軍司令官……………	一
二、満洲經濟建設に就て……………	小磯參謀長……………	六
三、建國の基礎工作に於ける宗教及教育の力に就て……………	監察院總務處長……………	一六
四、満洲國の人口……………	井上中佐……………	二四
五、満洲國交通概觀……………	大村交通監督部長……………	二六
六、満洲に於ける採金事業……………	國務院統計處……………	三一
七、満洲大豆の當面の問題と其對策……………	菱沼勇……………	三六
八、満洲特別自衛移民の現況に就て……………	小河正儀……………	四三
九、満洲國の馬政について……………	濱田大佐……………	五一
一〇、各地方の經濟建設の狀況……………	隸下各部隊……………	六一
一一、満洲事變と今日の哈爾濱……………	平岡少佐……………	九五

1659

一二、蒙古青年訓練所生の哈爾賓見學感想	二〇二
一三、承德日語講習會の概安と學生の所感	一〇四
一四、滿洲國の現狀（ロンドン、タイムス掲載記事）	一〇八

二

1660

事變二周年を迎へて所懐を述ぶ

關東軍司令官 菱 刈 隆

回顧すれば昭和六年のてふど本月本日、柳條湖の間を破つた爆音が我が破邪顯正の活動を促してから早くも滿二年の歳月が流れました。私は昭和五年の六月故州大將の後を承けて關東軍司令官の職を拜し、事變突發の直前八月本庄大將に譲る迄一年有餘の間、親しく旅順に在つて滿洲當年の重苦しい空気に觸れて居りましただけに今日明朗なる空気に包まれた輝かしい此の記念日を新興滿洲國の首都新京に迎へました感慨一入深いものがあります。

過ぐる滿二年の間皇軍は廣漠たる滿蒙の地に作戦し、其波紋は更に擴つて上海北支に及び東奔西走、南船北馬、眞に席の溜まるを知らなかつたのであります。其結果として張學良政権は完全に崩壊し王道政治を標榜する滿洲國の建國となり更に進んで我國の承認となつたのであります。關東軍は申す

に及ばず在滿機關は一齊に山行かば草むす屍と相協力して天業の恢弘、皇道の宣布に努め上は聖慮に應へ奉り下は同胞の期待に副はんとひたすら精進いたして居りますが、實は尙其及ばざるを恐れて居ります。聊か自畫自贊の嫌ひはありませんが、滿蒙の狀勢は之を事變突發の前後に較べますれば、實に隔世の感があります我國民の關心を集め其生命を賂して援助して參りました滿洲國は尙建設の途上に發進して居りますが今や諸制度も着々として整ひ押しも押されぬ獨立國としての態様を備へつつあります。就中、官制法制、幣制、税制の如きは略其制定を終り、財政の基礎も亦年と共に堅實の度を加へ、治安の確立に伴ひ、國家運営の基調たる各般の建設工作も頗る順調に進捗し、殊に交通機關の整備に至つては刮目に値するものがあり、從て起る諸般の經濟建設も逐次其形

態を整へ全國に亘つて潑刺たる新興氣分が漲つて居ります。

先づ治安恢復の方面を一瞥いたしますと昨年初頭以來不斷に敢行いたしました數次の討伐に依り、馬占山、徐景福、李杜、丁超、王德林、蘇炳文等の反滿諸軍は相ついで撃滅され、また四方に潜伏して居りました大小無數の匪賊も漸次風を望んで歸順を申出で、次いで熱河作戦の結果同地方一帯の歸屬も明白となり、建國以來の懸案であつた國內統一の大業も今次其大綱を完了いたしましたので、新興滿洲國の基礎は茲に一段と鞏固の度を加へました。唯各地に残存散在する小匪賊は今尙多少の蠢動を繰返しては居りますが、是等は滿洲在來の特殊事情もあり、土地共のものが餘に廣漠たる關係もありまして一朝一夕に彼等の根絶を期するのは困難であります。此等の匪賊も現在では全滿を通じて約五六萬に激減して居ります之を昨年の匪賊最盛期に於ける約三十萬に比べますと兵匪掃蕩の進捗は洵に顯著であります。由來匪賊の跳梁は高粱の繁茂に伴ふて熾烈となるのが恒例でありますから我軍は其繁茂期に先だつて彼等の殲滅を圖り、匪賊の根據地と目せられる

地方の要所要所に部隊を配置し、小匪の集合據頭を抑壓し治安の確立を期した次第であります。實は從來久しく所謂滿洲馬賊と唱へられた職業的匪賊の出沒を絶滅するのは蓋し容易ではありませんが、尠くも政治的色彩を帯びた反滿不逞の徒輩に對しては常に斷乎として討伐を敢行し其全滅を期して居りますから、最近此種の匪賊は撃滅されて其影を没するか然らずんば驕然志を擲つて我軍門に降り、歸順解消しつゝある實情であります。轉じて經濟建設の狀況でありますが滿洲國の經濟建設は我國の國防竝に經濟と極めて密接なる關係を有します次第もあり、其方面の施設企業的具体化は頗る慎重なる研究を重ねて進められ去る三月一日其大綱の發表を見たのであります。其一切は日滿兩國相互依存の大精神に則つて計畫され、而も經濟發展に伴ふ利益は恰く日滿兩國國民一般に均霑せしめることを主眼とし、經營上の形態は國防に密接の關係ある交通通信等の諸事業竝に日滿兩國國民の經濟生活を支配すべき重要な産業に向つては國家的統制を加ふることとし現に統制の進行中に屬するものもありますが、既に鐵道、河川

港灣、電信、電話、重要鑛業等の建設統制は略一段落を告げ九月一日から京圖線が開通し電信電話會社が其業務を開始いたしましたのは御承知のことと存じます。

斯くの如く國內の治安恢復に促されて滿洲國は日一日と其内容を充實し事實上國際的に其地位を認められつつあることは最近いまだ滿洲國を正式に承認せざる第三國の資本家が漸く王道樂土の實相を認識し産業開拓の投資に食指を動かしつつあるのに徴しても明かであらうと信じます。列國に對する門戸開放は夙に滿洲國の聲明した所でありましたが假りに我國だけに即して考へましても日露戰役以來二十數年の久しい間未解決のまま放置されてあつた諸懸案は滿洲國の友好的政策に依つて殆ど解決し殊に今次の事變前日支間の痛と稱せられた所謂我國の特殊權益は皆に解決せられたばかりでなく更に確認擴充されたのであります。説いてここに至り兩三年前の狀態を顧みますと誠に感慨無量であります、併し乍ら謂ふ所の特殊權益の如きは申す迄もなく第二義的のものであります日本及日本國民としてはどこ迄も犠牲に甘んじ、滿洲國の建

設發展と東洋永遠の平和の爲に奮闘し皇道の布施亞細亞文化の宣揚に邁進することを第一義とすべきであると信じます。

更に滿洲國の治安が如何に恢復されたかまだ建設途上の滿洲國が如何に興隆に向ひつつあるかを雄辯に物語るのは内地人、朝鮮人同胞の異常な増加であります。王道樂土の實現に促され今後恐らく加速度的に増加することでありませう。

滿蒙の治安恢復をめざした皇軍の活動をかく迄に推進し新興滿洲國の建設をかく迄に促進し、僅々二ヶ年の間に文化史上稀有の成果を挙げましたのは一に御稜威に依るものであり、まだ在滿諸機關の活躍と滿洲國三千萬民衆の眞剣なる努力とを忘れることが出来ないのですが、此間に於きまして皇軍の活躍に些の遺憾なからしめたのは銃後にある同胞の熱誠が與つて力あつたと確信するのであります過去二ヶ年の間物心兩面に貢獻された銃後に於ける國民の熱烈な後援は私の心から感謝措く能はざる所であります。凡そ國內輿論の緊張、軍に對する國民の激勵程將兵の心を奮起せしめるものはありません。在滿諸機關にたつさはる人々は言論通信機關に

三

1663

依つて國內情勢を耳にし、また或は同胞の赤誠になつた愛國の雄姿を仰ぎ見る毎に益々奉公の志に燃え唯一死國に報ゆるの感激と不退轉の勇猛心とを振起し遙かに銃後の國民に向つて深甚なる感謝の念を浮べると共に皇道宣布の第一線に立つ身の榮光と重責とを益々信念化致すのであります。

茲に事變二週年の記念を機會に軍の踏破し來つた足跡を再び認識するに當り私の胸を衝いて湧き起るものは本事變に殉じたる故武藤元帥以下幾多將兵の英靈に對する崇敬の念であります。沙場に活躍して屍を馬革に包むのは固より武人の本懐とは申し乍ら誠に痛恨に堪えませんがまだ武運拙なく不幸病に斃れたものは其心境洵に同情に堪えないものがあります。齊しく君國に殉じた點に於きまして少しも變りはないのであります。共の後世護國の神として輝き永く同胞崇敬の中心となるべきであります。

尙特に殉難將兵の遺骸に對しては深く厚く哀悼の意を表し家門の繁榮と慶福とを祈願して已みません。尙又事變の爲不幸癡疾となられた將兵に向つては何と申しませうか洵に慰問

の辭に苦しむのでありまして唯厚き同情を捧げ切に一同の加餐を希ふ次第であります。

今次の事變は宣戰布告による戰爭ではありませんが其意義に於て之を繞くる外交關係に於て其善後措置に於てまた國運の進展に絶大なる關係のある點に於て眞に未曾有の大事變でありまして之を日清日露の戰役に比べましても其影響の偉大なる點に於ては遙に優つて居ると信するのであります。

今や建設途上にある滿洲國は日に月に順調なる歩みを續けて居りますが漸く建設の基礎工作を終つたに過ぎないのであります。其内容充實と完成とは今後に俟たねばなりません。治安維持の工作に於ても今後當分は軍の活動を必要とするのであります。従つてまだ我が財政上の負擔も相當にかさむことを覺悟せねばなりません。又苟くも我が正義を貫く爲に自主的の歩みを致しますれば對外關係に於きましても色々の事態が起きぬとも限りませぬ。此間に於きまして我等は滿洲事變の重要性に鑑み銳意初志の貫徹に邁進しあらゆる障礙を突破して世界道義に對する我國の使命を果さねばなりません。

ぬ。是こそ實に我が大和民族の義務であり、同時に殉難將兵の靈を慰むる唯一の道であります

惟ふに滿蒙の地は我が國にとつて管に接境の地といふばかりでなく我國防の安危の懸る所でありまして、過去に於ても亦多數同胞の鮮血を以て守つた土地であります。この土地に生れた滿洲國は内には舊來の暗黒政治を排して人類協和の樂土建設に精進し、外には信義を重んじて和親を列國に求めて居るのであります。が世界に於ては前申しました如く正義公正といふものが無條件に容れられないことも勘しと致しませぬ。想ふて茲に到れば對外難局は寧ろ今後に横つていと覺悟せねばなりません。従つて我國民が今次の事變を楔機として喚起された祖國意識を擴充し更に清新の意氣をもつて眞の日本に立歸るのも今後でありと謂はねばなりません。果して然らば所謂非常時は今現に進行中であつて而も其最高潮は今後に来るものと期待すべきであります

我在滿蒙機關は概に業に其覺悟を以て銃後に於ける同胞の熱誠と決心とに信頼し不退轉の決意を抱いて祖國安危の岐路

ともいふべき第一線に立ち狂瀾怒濤の彼岸に凜然たる光輝を望みつつ勇躍して其本分に邁進して居りますが、つらつら考へまするに日本及日本國民が果して豫約する理想的殿堂に達し得るか否かは空前の難局に當面せる九千萬同胞が克く今迄通り舉國一致の努力を續けて日本精神の精華を發揮するか否かに職山するのであります。私は滿洲事變二周年に際し聊か所懐を述ぶると共に昭和の意氣が天與の試練を感謝しつつ先輩の遺業を紹述し次代國民への餞けとして舉國一致刻下の難局打破に最善の努力を注がれんことを切望して已まぬものであります。

滿洲經濟建設に就て

一、滿洲經濟の統制根本方針

滿洲國に於ける經濟統制を如何にするかといふことに付ては其の前提として先づ日本帝國と滿洲國との關係を明確に認識する必要あります。滿洲國は現實に國防、外交、産業等諸般の關係に於て帝國と密接不可分の關係にある獨立國でありますか此事實は昨年九月締結せられました日滿議定書に依り帝國の國策として中外に宣明せられ此の國策は更に本年三月帝國が國際聯盟脱退により所謂焦土外交として半手として不動のものとなつたのであります。私は帝國と滿洲國との關係即滿洲國が帝國と密接不可分の關係にある獨立國たる國策を明確に認識することか滿洲經濟統制の尺度であり日滿兩國經濟の統制を糾する根本方針も亦茲より生れるものと信ずるのであります。此の根本的方針即帝國の國是の警石微動だもせまいことを信頼し日滿兩國の關係を明確に把握することが

六

關東軍特務部長 小 磯 國 昭

出來れば滿洲國經濟統制に當りて或は滿洲國を我國と對立の關係にある國にも比すべき方策を建てたり又は滿洲國を帝國の植民地扱にする様な方法を取つたりすることなく何等の不安や焦躁なく小乘的、近視眼的經路を捨て、悠々大乘的心境を以て國家百年の大計を樹立することか出來恰も慈母の愛兒に於けるが如く衷心滿洲國の健全なる發育と成長とを祈願する氣持になれるのであります、斯る所信の下に

統制の根本方針は

- (一) 日滿經濟を單一體に合理化融合し
 - (二) 平戰兩時に於ける日滿兩國の國家存立並國民生活を安固ならしめ
 - (三) 併せて對外經濟力擴充の根基を確立するに在り
- 而して右大方針の達成上注意すべき要點は
- (一) 日滿兩國民全體の利益を基調とし利益の偏重を避くる

1666

こと

(三)(二)

日滿兩國の國防經濟を確立すること

外國に率先して不拔の日本經濟勢力を滿洲に扶植し後

進國たる滿洲國の經濟を誘導すること之か爲め皇國の

資本技術及日滿兩國國民の勞働力を新指導精神の下に運

用すること

(四)

適地適應主義に依り國家全般の利益を基調として合理

化に役立つ産業形態を考慮すること

(五)

門戸開放、機會均等の主旨を尊重する爲め前號に妨な
き範圍に於て外國人の企業を許し若は外國資本の流入
を促すこと

の五點であると確信するのであります

二、滿洲に於ける經濟統制の範圍及方法

滿洲に於て統制を加ふべき産業は其の人の立場に依り夫々異
なる意見あるべきも前述せる如き滿洲經濟統制の根本方針に

従ふものとはせば次の如きものとなる様に考へます即ち

(一) 交通、通信に關する主要事業

(二) 國防上重要な工、鑛業、及重要な基礎産業

採金事業

電氣事業

金融に關する主要事業

公益産業と見做し得べき事業

(三)(四)(五)(六)(七) 産業合理化の見地に於て特に統制を加ふべき必要な

産業

の七者でありまして右は國營又は半官半民乃至は特許又は

許可の方針を以て統制を加ふべきものと考へます

其の他の産業は自由企業を許し以て企業家の進出を促進し

然るべきものと信じます。但國民全般の利益を基調として利

益の偏重を避けたり産業合理化の見地より所要の統制を加へ

らるべきは當然の事でありませう

以上の主旨に基き各種統制すべきものを具體的に配列致し

ますと概要左表の如きものとなる様に思ひます、但し本表は

全く私個人の私案でありますので此の點特に御含み願ひます

統制事業の例示一覽表

第一 國營、公營（又は特許事業）に依る事業

- | | |
|----|---------------------------|
| 1 | 特殊銀行業 |
| 2 | 貯蓄銀行業 |
| 3 | 中央銀行 |
| 4 | 彩票若は割増金附債權發行業務 |
| 5 | 郵便 |
| 6 | 鐵道（地方鐵道及專用鐵道を除く） |
| 7 | 電信電話（無線放送事業を含む） |
| 8 | 航空業 |
| 9 | 競馬 |
| 10 | 屠場 |
| 11 | 家畜市場 |
| 12 | 國有林に於ける林業 |
| 13 | 阿片、コカイン等の取引及加工業 |
| 14 | 國有鐵區の採金事業 |
| 15 | 鐵、石油、輕金屬原礦等國防上必要なる礦物の採掘事業 |

八

第二 許可（認可）に依る事業

- | | |
|----|---------------|
| 16 | 輕金屬精鍊事業 |
| 17 | 製鐵製鋼事業 |
| 18 | 油母頁岩工業 |
| 19 | 電氣事業 |
| 20 | 火藥製造事業 |
| 21 | 其他軍需工業 |
| 22 | 度量衡器製造事業 |
| 1 | 普通銀行業 |
| 2 | 保險事業 |
| 3 | 地方鐵道（一般軌道を含む） |
| 4 | 自家用專用鐵道 |
| 5 | 自動車運輸事業 |
| 6 | 河川小運送業 |
| 7 | 海運業 |
| 8 | 小運送業 |
| 9 | 漁業權に依る漁業 |

- | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|----------------|------|-----------------|------|---------|---------------|------|--------|-------------------|-------------|----------|---------|------------------|---------------|-------------------|------|
| 1 | 24 | 23 | 22 | 21 | 20 | 19 | 18 | 17 | 16 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | |
| 自営に依る農牧業 | 製鹽業 | 煙草製造 | 曹達工業 | 酒精工業 | 硫酸工業 | 自動車工業 | 瓦斯事業 | 石油精製事業 | 石炭探掘其他(一の15以外の鑛業) | 國有鑛區以外の採金事業 | 罌粟の栽培 | 狩獵 | 羊毛及棉花の加工業 | 既特許林場權讓渡に依る林業 | 入漁業權に依る漁業 | |
| | 第三 自由に企業し得べき事業 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 18 | 17 | 16 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 |
| 皮革工業 | 染織工業 | 紡績工業 | セメント工業(生産統制を要す) | 油脂工業 | 食料品製造工業 | 醸造工業(二の21を除く) | 製粉業 | 製糖工業 | パルプ及製紙業 | 水産物の取引業 | 農林産物の取引業 | 畜産物の取引業 | 水産物の取引業(二の24を除く) | 製材業 | 農畜産物の加工業(二の12を除く) | 一般漁業 |

九

1669

19 一般製薬工業

20 機械工業

21 窯業

三、満洲に於ける國防産業建設の概況

國防産業に關する經濟建設に就ては日滿兩國側當路者の熱烈なる希望もあり満洲事變突發以來關東軍が中央部と密接なる連繫を保持しつつ鋭意努力しあるは勿論であります

今建國事業の中より抜き出して特に國防産業建設の概要を述べれば概ね左の通りと思ひます

交通及通信に關しましては又の機會に譲り茲には省略致します

一、鐵鋼業

満洲に於ける鉄鋼一貫作業の實現は夙に其の必要を唱導せられたるに拘らず種々の事情に依り遷延今日に及びたるが刻下の状態は一口も之を忽にすること能はざる情勢にあるを以て之か實行を計畫し鞍山製鐵所の現在設備を標準とし新に鞍山に昭和製鋼所を設立せしむることに既

一〇

に工場建設の準備に着手中なる事は新聞にて概ね御承知の通りであります

尙前記昭和製鋼所に弓張嶺鐵礦公司及本溪湖煤鐵公司を合同せしめ以て満洲に於ける製鐵事業の合理化を期する方針であります

二、炭礦會社

石炭は日滿兩國の交通、運輸及一般産業に必要な動力源にして且燃源たるのみならず新興化學工業原料として重要な資源なるを以て其の供給の円滑と價格の低廉とを圖る爲に資源の經濟的開發に意を用ふると共に満洲に於ける炭業の全部を一貫せる統制の下に行動せしむる爲別に炭礦會社設立の方針の下に研究を進めて居ります

之か實現せらるるのも遠くはあるまいと信じます

三、液體燃料

撫順に於ける頁岩油工業は既に相當量の燃料重油を供給

つつあるも其の一部を割きて揮發油に轉化することは滿洲に於ける航空機及自動車用の燃料補給上緊要なるを以て目下之に關し研究中であります。其の結果に基き將來更に其の大部分を揮發油化せしめ同時に現工場の擴張を圖るの要あるべく此等に關し研究調査を進めて居ります尙滿洲に於ける自動車燃料補給策として酒精混成燃料の使用を奨励し酒精製造工業に對し適當なる保護を加ふるの方針も定つて居ります

四、アルミニウム

本邦に於けるアルミニウムの供給は從來擧げて之を外國に俟つの已むを得ざる事情に在りしか滿洲に於ける豐富なる礬土頁岩は既に現地踏査の部に於て述べたる如く其の鑛量豐富なるを以て之に依りアルミニウムの製造を試みるは緊要にして且策の得たるものと信じます。本件に關しては一定方針の下に半工業的試験を行ひたる後之を事業化する計畫の下に一會社を設立すべく現にその準備中であります

アルミニウム工業に就ては撫順に於ける低廉なる電力を利用し差當り年産一萬二千噸を目標とし奉天附近に乾式製造法に依り滿鐵及内地同種企業家を糾合せしめ實現化するもの如く聞いております

五、マグネシウム

マグネシウムに就ては大石橋附近に存する豊富なる菱苦土礦を以て製造すへき案を具し目下其の方法に就て研究中であります

本件に關しても内地に於ける同種事業者と連絡をとり本年中には製造會社設立の見込と聞いて居ります

六、硫 安

硫安工業は重要な基礎化學工業の一にして水素、アムモニア等を利用する軍需工業と關聯する所鮮からず其の實現は滿洲に於ける化學工業の發展を促進せしむるものなるを以て將來滿洲に於ける需要を考慮し日滿兩國に於ける硫安の自給を策すると共に海外進出を圖る爲大連に能力十八萬噸の硫安製造工場を設立せしむることに決し

既に其の建設準備に着手して居ります。此の新設工場は石炭を原料としリンデ式装置を以て廉價なる水素を製造しウーデ法に依りてアムモニアを合成するものであります。すが將來は之を基礎として更に其の製造品目の範圍を擴張せられ滿洲に於ける化學工業體係の中心たらしむる如く指導願ひたきものであります。

七、曹達工業

曹達は軍事上必要なる資源なるのみならず一般工業の發達上にも極めて重要なものであります。滿洲には之が製造の爲め必需原料品たる食鹽並電気資源豊富なるを以て之が事業建設に關しては目下鋭意研究中であります。

八、採金事業

北滿の砂金及金鑛は世界に於て有數なるもので之が開發方法如何は其の鑛利の消長に關する所大なるのみならず採金事業の進展は單に國防上のみならず新國家幣制の基礎を鞏固ならしむる所大なるを以て之が統制の爲日滿合辦の採金會社を設立し速に採金事業に着手せしむること

とし其の實現に關し目下計畫を進めて居ります。又砂金及金鑛の調査に關しては取敢へず特殊の調査機關を設け本年度より着手しあり而して之が調査隊は遠く現地に出發して目下調査の最中でありませす。

九、電氣事業の統制

滿洲に於ける電氣事業は邦人の經營に屬するもの大部分を占め少許の滿洲側經營のものもあるも其の經營並技術共に甚だ幼稚であります。電氣事業は國民の福利に直接關係ある社會的公益事業たると共に産業の消長に關する所大なるものがありますので之を一貫せる統制の下に置く計畫を以て其の實行に着手中でありませす。

就中軍事上並産業の發達上直接必要なる企業に使用する電氣に關しては特に低廉なる電力を供給し得るやう特別の考慮を拂ひつつ目下研究中であります。

而して電氣事業に關する法規の制定及本事業統制機關の組織等に關しては日滿兩國當局者の密接なる連絡の下に成立しある社団法人滿洲電氣協會の協力の下に目下着々

進行中であります。

一〇、兵器製造

舊東三省の支配者張學良の設立したる奉天造兵廠設備を有意義に使用する爲差當り昨年十一月日本側出資に成る株式会社奉天造兵所の設立せられたるは新聞にて御承知の通りであります

同會社は各種兵器及農具度量衡等の製造を營むものにして差當りの資本金は小額の様にして居ります、將來日滿合辦の組織とし必要に際しては増資擴充するものと思ひます

一一、自動車工業

自動車は國防上は勿論國利民福増進上より見るも重要なものであります、我が國內地に於ける斯業は頗る幼稚なるものなるに鑑み將來大いに進出の餘地あるべき滿洲方面の自動車工業は成るべく日本内地に於ける斯業を發達援助せしむる方針の下に之か研究を進められて居ります

之か工業豫定地並企業組織等に關しても目下中央部と連繫をとり鋭意計畫中なるを以て近く具體的會社の設立を見るに至るものと信じます

一二、火藥

滿洲に於ける治安を容易ならしめ且鑛工業用火藥の潤滑なる供給を圖る爲火藥類の製造、販賣及輸入の全般に亘り舉げて之を新政府の手に收めしめ火藥原料に就ても政府の事業と爲す方針であります、従つて從來民間に行はれたる硝石の製造は一切之を禁止する事に確定して居ります。

一三、度量衡

滿洲國に於ける現行度量衡は極めて不統一にして各般の事項に對し支障を來す所多きを以て速に之か統制を期するの必要を認め暫定的方法として在來慣用の度量衡に準據して制定せる尺斤法を主制としメートル法を補制として直に之か普及實施を圖り將來適當なる時期に於てメートル法單一制に改むることに確定して居ります、尺は

メートルの三分の一にして斤は一キログラムの二分の一なるを以て之をメートル単一制に改正することは極めて簡易であります

尙度量衡器は滿洲國政府の專賣とし其の簡易なる物の製作は滿洲國政府自ら之に當り精密を要するものは奉天造兵所及商工省の推薦する者の手を経て製作納入せしむる豫定と聞いて居ります

一四、工業品規格

滿洲國に於ける將來の産業及貿易の趨勢に鑑み且日滿統制經濟の實行を確實ならしむると共に對外經濟戰を有利に導く爲には各種工業品に對する規格統一が緊急の要事とあります 従つて之が爲には日本標準規格を其の基礎とすることか最も合理的でありますから滿洲國實業部に本件に關する委員會を設け日本の同委員會と連繫を保たしむることとなつて居ります

一五、鑛業法の制定

鑛業の根本法規たる鑛業法は皇國の企圖する國防上必要

一四

なる鑛業開發とも密接なる關係があります。之に關し滿洲國は建國と共に臨時辦法として舊鑛業條例に載る旨發令したるも該條例は排他的條項多く變改を要すべきもの多し之が爲鑛業法の制定上特に注意すべき諸點に就ては新國家當事者と相協力して研究し建國當事日滿兩國民の熱望も深く參酌し法規の立案に努め既に完成の域に達せるを以て速からず發布せらるるものと信じます

新鑛業法は本邦の現行法に則り滿洲に於ける諸般の特殊事情を考慮せられある由なるを以て必ずや實情に則し且鑛業の開發を促進し得るものと信する次第であります

一六、滿洲國馬政

馬は軍事上は勿論畜養農業促進上特に重大要素であります して皇國內資源の貧弱なる現況にも鑑みられ銳意之が改善方策を考究中であり、而して之が改善には主として滿洲馬の有する美質を保持し其の能力を向上すると共に體高一、四五米を標準とし體幅之に伴ふ小格駄馬を得る如く其の改良を行ひ四、五十年後に於て民有馬中少く

とも豫想頭數の改良馬を保持せんとする意氣込の様に承つて居ります而して之が爲獎勵機關をも新設し種牡馬の設置、競馬事業の施行、取引機關の整備、馬事衛生の向上等に關する施設を行ひ其の達成を期しつつあるやうに承つて居りますので日本に於けるが如き馬政の統制の實現を見るのも遠きに非ずと信じます

一七、綿羊政策

綿羊に就ても軍事上は勿論國民生活上より見るも極めて重大なるに鑑み適當なる種類の普及、在來種の改良増殖等に努力し種畜の供給牧野の改良、其他獎勵施設を整備し極力其の改良増殖を行はんと目下滿洲國政府に於て鋭意計畫中なりと聞いて居ります

一八、棉花の増植に就て

棉花の需給は日滿兩國民の生活並國防上重要資源なるを以て逸早く改良増殖をなすの方針の下に之が一切の建設を進められて居ります
而して滿洲の棉花は主として在來種にして收量少なく品

質亦良好ならず。其の栽培面積僅に數萬町歩繰綿生産二千萬斤と推定せらるるに過ぎざる状態にありますので滿洲國政府では多年關東廳及滿鐵に於て試験の結果改良せられたる陸地棉の普及獎勵に努め二十ヶ年の計畫を以て栽培面積を約三十萬町歩に擴張し繰綿一億五千萬斤の生産を得るを目標として之が増産を圖らんとし新聞紙にても既に御承知の如く滿洲國實業部總長張燕卿氏が中堅となり棉花協會の既に設立せられ栽培普及に著手しある状況であります

十九、氣象施設

滿洲國に於ける氣象施設の完成は交通、産業の開發及國防上極めて必要なるを以て成るべく速に實行するを要し既に關係方面協議の上成案は得られて居ります仍て滿洲國の財政を顧慮し大同元年度より概ね五箇年間に其の施設を完了せらるゝ豫定なりと確信して居ります
而して氣象機關は差當り總務廳の管轄とし中央觀象臺を新京に、地方觀象臺を奉天、齊々哈爾、龍井村、ボクラ

ニチナヤ、海拉爾、黒河、赤峰の七箇所に置き、各地二十九箇所に觀象所を配置する筈で尙既設關東廳及滿鐵附屬氣象機關は滿洲國氣象機關に協力し滿洲國內氣象業務の完成を期し中東鐵路氣象機關に對しては成るべく之に協力する如く指導せらるゝものと考へて宜しからうと思ひます

二〇、滿洲國中央銀行

建國の基礎工作に於ける 宗教及教育の力に就て

監察院總務處長 藤 山 一 雄

(一)
如違ひのいかめしい演題でありますが平素所感の一部を極めて寛ろいで述べさせていただきます。

さて私は滿鐵線を汽車で通る度に感します事は此の線路の

一六
一國財政金融の基礎を確立せんには先づ中央銀行の確立を先決條件とすべきは勿論であるが私共軍人の意見を以てすれば滿洲國は平戰兩時を通し同一經濟圏内に於て生活すべきものにして特に戰時にありては軍需品の彼是融通外國より不足資源の輸入等に關し我國と同一國際收支決算の下に共同戦線を張り活動せざるべからざる關係もあるやうに考へられます

東側に波濤の如く延々と重疊致して居ります丘陵を見ましてその上に多分蔽さつて居たろうと想像される森林が剥ぎ取られてからまた余り間あるまい。燃料の爲めとか牧畜に都合のよい爲めとか兎に角此の地を占領した滿洲人なり蒙古人な

りが余り古くない時代に森林をとり拂つたのだろうと申しますのは、森林伐採後水蝕や風化作用の爲めに山際に深い地溝が出来るとか稜々たる山骨が露出するとか、といふ様な自然現象が余り見えない、勿論千山とか大和尚山とかないでもありませんが、一帯に自然の風貌が極めて柔らかで丁度大洋の浪のうねりを見る様である。地理學者がこれに波状丘陵と名づけましたのは此の形状からヒントを得たのでありませう。

朝鮮も此の節は總督政治の御蔭で到る處に植林が行届いて参りましたが、それでも朝鮮鐵道の汽車の窓に徂徠する自然の景色に比較致しますると、こちらの自然は單調ではあります、何となく「自然の若さ」を感じます、風雨に虐なまされてゐない(人文的に幼年期であるといふ度いのであります)「幼年滿洲」「青年滿洲」と呼びかけ度いのであります。

殊に北滿に到りますると此の曠野は向後まだ十年か二十年は肥料なしでも相當な收穫が豫想されるのであります、パチンツェイルが、こんな結構な土地は怖らく世界にも澤山はあるまい「處女地」としての豊穡さを切に感じさせられる、私には

先年紐育よりセントラルで紐育より市俄古に、更にサンタマエラインで市俄古よりロスアンゼルスに、ミシシッピ河流域の肥沃な廣地とはやゝそれて、その外遊を迂回致した形ではありましたが兎に角北米を横斷致しました、此の見聞を直ちに滿洲に比較するのは如何かと存しますが、兎に角此の線路にうつる合衆國の自然は親しみが薄い、大地の荒涼老廢から來る寂しさをさへ感じたのであります。

人文地理的に北米大陸よりも滿洲の自然の迫力が強く將來人類の文化の收容所として遙かによい條件を具備して居る、經濟的にも自然の偉大さが備はつてゐることは私の申すまでもないことでありませう。以上は滿洲特性の素人觀であります、が更にその運命について私獨自の素人判斷を致します。

中世に於けるラテン人の文化がローマに頽廢致しまして、ケルト人は北方から起り次第に文化を西方に引きずり、産業革命後に於て遂にアングロサクソンが英國、殊に倫敦に世界の文化をかき集めた、處が近代に至り此の英國に溜つた文化のエッセンスは東西に分れ東するものはスエズを素通りはる

く、と極東を日本に、西するものは大西洋を越えてアメリカ合衆國に暫らく腰掛をして居りました、世界大戦後に於てやゝもすれば紐育が倫敦に取つて代らんとするの氣配を見せましたが、アメリカ人には咀嚼力はあつても悲しいかな創造性が弱い、シビリゼーションはあつてもカルチュアがない爲めに此の澎湃たる文化の潮流は大陸を襲通り更に太平洋を越えて日本に迫つて参りました。實に東西兩半球の文化を洗ひ寄せ、もの凄く日本に流れ込んだのであります。

もとく、日本の文化と西洋の文化とはその出發點が異なり全然別のものである。西洋人も日本の文化には驚くが日本も西洋の文化には一寸驚いた、日本の文化は木造の建物見たいに渾一的綜合的であり、西洋文化は煉瓦建見たいに單一的分析的であります、前者は家族制度を基調と致し全部が一部の擴がりである。親も 天皇も畢竟神の顯現であります、それ故安神して身をまかしてゐる。外觀はばらくの様でありますが、一旦緩急の秋には個々が一家に一國に歸一して境界がありません、權利だの義務だの、表裏があるべき性質

一八

のものではありません、此のスピリットが一切の生活に顯現した文化であります。然るに後者は個人主義を基調にしてゐる家といつても一個一個の煉瓦の集積に過ぎません、家と申しても一部屋々々集合に過ぎません、個々はあくまで獨立し境界を有し、鎚を澤山要する文化である。一片の肉に噛みつく野獸の群の様な出發をなした文化であります、先に喰ひついた強い奴が所有權を獲得したが残りのしかたなく黙つて見てる奴に分けてやらねば今度は東でかゝつて來亦喧嘩になるので止を得ざる義務が生じた西洋の秩序とか法律とかは此の止むを得ざるに出てし約束である。初めより喧嘩に出發した文化であります。それ故その分前の多少により必ず苦情が出ます、社會主義や共產主義は當然なる此の文化の悲鳴でなければなりません。

孔子の身を殺して仁をなせ、キリストの隣を愛せよとのスピリットなどはラテンやアングロサクソンのものではありません、けれども西洋の文化は丁度油繪の様に繪の具でごまかしてタツチを塗るつづす方法を知つて居る。それが今日の科

1678

學ででつちあげた文明の形体である、法律、經濟學は全く此の醜惡なる個人主義文化の辨解であります。

彼様な文化をベルリの浦賀一發の大砲にたまけて起き上つた日本人が、一時傾倒したのは止を得ないことでありました、然しながら半世紀ならずして消化しつくした日本は、既にこのよい處は凡て日本獨自のものとしてゐます、フランスの社會學者ルボンは日本文化を淺薄なる歐洲の模倣だとぬかしてゐるが今日の佛蘭西が日本の何物に優越致し得ますか、此の偉大なる模倣を以つて日本を劣等視することは歐洲人自ら天に唾するものであります、一例を申せば化學に於ける「獨創」とは畢竟「模倣の綜合」に過ぎません。模倣は模倣でも日本文化は多數の模倣を結合咀嚼して更にいはゆる「獨創」の上層圏に到達致したのであります、二十五年經過してさへ英國も米國も一巡洋艦「摩耶」をつくり得ないといふではありますせんか、歸納的な科學などの消化、發展は日本人の脳力ではなんの苦でもありません、只に科學及科學より出發する物質的文明の發達のみならず、宗教及哲學に於て藝術に於てそ

の創造的發展の迅速なる事は實に驚嘆に値し一例を申せば大震災後僅かに六年ならずして大東京復興を完成せるが如き正に日本人の偉大なる創造性の顯現に外ならず、大東京こそは形而上下の文化に於いて世界の中心なりと斷言しても過言にあらずと存じます、地震すら最早かくも無殘に東京を容易に破壊し得ないでせう。

然るに今日滿洲國が突如として此の地質背腹、人煙稀薄尤も幼年期の自然を背景に建國され日滿兩國民族協力して非常なる努力の下にその基礎工作に邁進しつゝあるのであります、これ實に久しきに渡る白色人種の重壓に磨けつくされしアジア民族反弊の大序曲であり一面より申せば東京文化が東海の孤島と大陸をつなぐ一大擴張工事でありまして、天の時と地の利とが茲に結合して世界文化の一鎔鑛爐が出現したのであります。

滿洲國こそは正に現代世界の一大主役でなければなりません。

(二)

私は一九二九年の八月。西亜細亞、地中海端なるハレストク
インに於ける猶太人の殖民地を見物致しました、御承知の如
くモーゼをして「蜜のしたゝるカナンの地」として憧憬をよせ
しパレスチナの地はジオニスト運動即ちユダヤ人の聖地回復
運動の對象と致しまして古より知られ、その後一九一七年
英國外相バルフォアの宣言となり、或は國際聯盟規約により「
近世界の激甚なる生存競争の許に未だ目立し得ざる人民」の
後見制度を定め「文明の神聖なる使命」が中外に宣言されユ
ダヤ人自身も祖國回復、國家再建の精神的要求に燃え、急激
に發展致しましたが、猶太人はその昔「神の國などを建てる
のならよせ」と叫びつゝイエス、キリストを十字架にはりつ
けに致した程の、唯物的な先祖をもち、近くはマルクス、エ
ンゲルスの如く世界をまづ赤にしようとする程の兄弟を出し
た民族でありまして、これは全く唯物主義的殖民地企業に終
らんと致して居ります、これは實に魂のない國家建立のよい
見本であります。滿洲國の行くべき道ではありません、然る
に更に私は西歐羅巴の一隅に今一つの特種なる國家再興の一

二〇

例を見物致しました、それは世界の農業國丁抹で御座居ます
丁抹は中土のまもなくバルト海と北海との間に突出せる
いはゞ一連の砂洲でありまして標高のない、水澤の多い濕地
でありました、今より約七十年前獨逸との散戦に丁抹の爲め
にはその喉首とも申すべきシュレスビヒホルスタインを獨逸
の爲に奪はれて終ひました、此の屈辱偲び臥薪嘗膽せる國民
は總立となり、先覺者ダルフス大佐をリーダーと仰ぎ、報復
の第一手段として意外にも北海に面する海岸線に防風林を仕
立て荒野を綠化し、除々に全國に跨る砂地を耕地となし、牛
と手入れを熱心に始めました、此のことは丁抹ばかりでは勿
論ありません、奈翁に荒された獨逸も實はビスマルクの發議
で興國の第一工役として國民に愛林思想を鼓吹し、國民と森
林との關係は尤も深く諺に實質剛健なる「獨逸の文化は森林
より」と謂はれてゐる如く、國民と森林の交渉が非常に深い
のであります。國內到る處鬱乎たる大森林の介在致してゐま
すことは地文的にも人文的にも國家興隆の一大シンボルであ
ります。此の意味にて他事でもあります。アメリカ合衆國の

1680

今日に於ける森林濫伐は既に此の一事で亡國の姿勢を取つてゐると斷言してさしつかへありません。國內到る處ジャズ入りにて物質文明に吹きまぐられた後に於ける精神的墮落はローマの二の舞三の舞を演ずる事と怖れる次第であります。丁抹獨逸に範を取りまづ國土緑化を目標に滿洲國が邁進致しますことは只にその物質的效果のみならず國民精神の上に至大なる影響のあることを忘れてはなりません。

植樹節など、申して精神のこもらない形式的の行事を致しましても吉林省の山奥や興安嶺を赤禿山に致しましては只に昨年の如き一大水害を天公より頂戴致すのみならず北滿を永久の泥海となし渤海や黄海を赤泥でつぶして終ふ時が早く來るかも知れません

(三)

丁抹人がダルガス大佐の意を体し全土の緑化に没頭し努力した事は實に國家百年の大計でありましたが、彼等は更に第二段の復興工作と致しまして、千年萬年の大計を實行致して居ります。これこそ眞に丁抹を磐石の上に置く國民總動員で

ありました、即ち大僧正グルンビイの魂により全國民は熱火の洗禮をうけました、即ち丁抹人は心を改めて天を仰ぎ、神を信じ、神を畏れ、神を愛する國民となつたことでもあります。此の國民的信仰は先つクリステン、コールの國民高等學校の創設となりました、獨逸をやつつける爲めに彼等は國境に堅固なる砲臺を築かずして、意外にも一見々すばらしき私立農學校を到る處に開設致しました、この學校こそは實に丁抹國民に愛國の魂を成就させる道場でありまして雄心ぼつぼつたる青年は茲に集り丁抹國旗を尊敬し、國歌を高唱し、勞働の神聖を體驗致しました、此の宗教と教育の渾然たる融合は國家復興運動の導因となり、その導因となり、その實踐教育は近世の資本主義が考え出したものよりも更に能率的であり、反對に自然的である産業組合運動となり丁抹は全く經濟的にも生氣潑刺たる一つの有機体として活躍することになり神の國が地上に實現したのであります、これを前申し上げました魂なき資本主義的唯物的ユダヤ國再興のバレストアインに於けるジオニスト運動と此較致しまするとけだし思半に過ぎざる

ものがあります、釋迦印度に死して日本に生き給ふ如く、イエス、キリストはユダヤ國にてはりつけにかゝり、反つて丁抹に生き給ふた形であります。

(四)

日本國民の偉大は日本人が神を信する國民だからであります、日本の文化は大和魂を根本と致します、今日誤まつてその少數が唯物物の思想にとられし觀がないでもありませんが唯物物の信仰は弱い、半年間の監獄の生活に屁古垂れて轉向致します、諸君眞の信仰はその善悪はともあれ、火あぶりにされても、首を鏝て引き切られても、信づるものから離れない強さを持つて居ります。手近な例が五、一五事件の青年士官達の公判庭に於ける健氣なる態度は如何でありますか、どちらが裁く人かわからないではありませんか、全く彼等には神あり、國家ありて、私がない彼等は信づるものゝ爲めに死を賭してゐる、假に彼等の一人が私の息子であると致しましてよしんば死刑に處せられても私は満足であります、日本は此の犠牲によりてまたまた決して亡びない國であることの證

據を見せました。

三三

さて滿洲國の政治を執るにあたり、私は更に施政要路者に、「汝尙その一つを欠く」ことを申し上げ度いことかあります。

その昔徳川家康公は「此の徳川家康は私は青年時代までは他人は勿論自分までもごまかす古狸の様な氣がして實に嫌な人物でありましたが年を取るにつれぼつぼつその味のある英雄である事がわかつて参りました。——此の家康公は幕府政治のオバーチュアアをあげるに當り農業學者や採金博士などを經濟參謀に引き具されしことは申すまでもありませんが更に自らの魂を導いて呉れ、民意を容れ統へるに無理のない天啓を與へて下さる治國平天下の大師範として天海和尚を仰がれた「俺がをらねば」といふ自分を叱咤する魂の指導者さまづ探しにかゝられたのであります、兵糧や爆彈の上に魂の力を祭られたのであります。これを滿洲國の政治から等閑にするると三百年は愚か明日が危いのであります。

・滿洲國は建國後二年ならずして國家機構は安普請ながらも

1682

まづ整つたといつてよろしい、然しながら私は偶像教徒では
ありませんが日本で申せば國の鎮と仰ぎ奉る伊勢大神に比ぶ
べき國民崇仰の大本心である神社と申しますか寺院と申しま
すか廟一つまだ建立せられておません一國立大學（大學と申
し上げて）も私の申す大學は日本の文部省の經營せる如き大學
を申すのではありませんが）一國立圖書館の基礎すらその國
都に置かれて居りません、如何に石炭が無盡藏であり、砂金
が到る處靴の底につき、材木の洪水が押し出る程自然に恵ま
れてゐても私をして日本以外の外國當事者たらしめば斯様な
有様ではこれを近世の國家としては承認しないであります
ら、まだくゞだらしがありません。國家の文教をしつかりさ
せる最必要があります。

諸君往昔アラビアの砂漠にバベルの大塔を築き上げ天に達
せんと志した馬鹿ものを私共人類はその祖先の一つに數へな
ければなりません。これは歴史的なことと嘘であつたかも知
りませんが。然るに驚くべきことは地理的にかゝる企をアメリ
カ人は紐育の尖端で如實に試みてゐます。天に達する一尺の

近距離を争ひ自慢にしてゐる。最も幼稚なる經濟的偉大を誇
らんとして摩天樓建築の競争に夢中であり、これ實に物
質的アメリカ精神の一部の顯現であります。一地震、一爆彈
に苦もなく瓦解するアメリカ魂の顯現であります。

然るに日滿協同の新國家は實に皇道と王道とを捻り、天と
地を繋ぐ神の國、魂の國の地上出現であります。「もの」を
創造することは殊に永遠的存在を期するには古來より人柱が
その犠牲となりし如く魂が大黒柱の下敷となり始めて天を
摩するの大塔となります、ローマかその巨觀をなしたる所以
のものは只にその政治的偉大のみならず、更にローマ人の
眞の偉大を渴仰する精神上のあこがれか之を然らしめました
埃及に於ても希臘に於ても今日殘つて居りまする藝術、工藝
の偉大さは全くその時代に於ける魂の顯現、魂の工作即ち宗
教の力でありまして畢竟宗教、教育は一國文化の源泉なりと
申上て過言はありません。茲に誤解してはならないことは「
偉大」とは單にその量のみならず、その質による一人のシェ
クスピアか英國の爲めには印度の大を以てすら替へ難しと致

しますのは、その偉大に於て量り知り難きシエクスピアの魂にあるのであります。三個の肉弾勇士の誠忠無比の魂よりしばらくマルキンズムにその永遠性をのわれし大和魂が直ちに清掃されたではありませんか、最早日本もいゝかげんに西洋の追従はやめ半世紀に渡つて管めつた唯物文明の糟粕を吐き出して神ながらの正道に還へすべき時であります。

此の時に當り滿洲國の大なる生誕を見たのであります。少くも滿洲國には愚なりし過去の日本の二の舞を演ぜさしてはいけない、此の三千萬民衆をして煩鎖なる法律を製造して自繩自縛せしめ愚劣なる西洋經濟學を基調とする個人主義的

滿洲國の人口

戸口は國策の基本にして速かに其の正確なる調査を必要とするも、草創事滋く裏に新京特別市に於て大同二年四月十五日稍組織的に臨時戸口調査を施行せるに過ぎず、故に茲には各地方官署の報告に基き、大同元年十二月末現在戸口の概定數字を示すものなり。

之に依れば我國の概算戸口は四百八十二萬九千餘戸、人口

唯物的産業を樹立して直ちに破綻自滅の悲慘に陥らしめてはなりません。天の時、地の利に和する王道に即する特異なる創造的發展を遂げしむるには東洋特異の宗教と道徳とによりその國民性を涵養し、きよろきよろしないしつかりした魂をまつ作らねはならぬ、その指導力は一つにかゝりて初代創業者の精神如何にあります。殊にその教導の任にある日本人の信念如何にありと存します、こは唯に滿洲國に對してのみならず、全人類の福祉に對しても重大なる責任があるのであります。

大同元年十二月末
滿洲國々務院統計處

二千九百六十万五千餘人にして内男一千六百三十三萬二千餘人、女一千三百二十七萬三千餘人なり、毎戸平均人口數は六、一人にして女百人に對し男一二三人に當れり更に人種別戸口數を見るに、滿洲人は四百七十萬七千戸、二千八百九十萬二千人、日本人九萬二千戸五十六萬六千人、其他三萬戸、一三萬七千人にして滿洲人は總人口の九七、六パーセントを

占む

今若し關東及南滿洲鐵道附屬地の人口を合算せば、滿洲人總人口は約二千九百九十五萬二千人にして日本人は約八十三萬八千人其他の人口は約十三萬九千人總計三千九十二萬九千人なり。

滿洲人	戸數	人口	日本人	
			戸數	人口
全 國	四、七〇七、一五八	二八、九〇二、五九二	九二、五七六	五六六、四七一
奉 天 省	二、二五七、〇二〇	一五、〇四四、四七三	一三、〇一六	九七、一〇三
吉 林 省	一、〇九二、八三一	六、六九〇、一九一	七四、一六八	四四五、二一二
黑龍江省	五八四、〇四六	三、六六八、〇九二	八九五	四、二八三
熱 河 省	五一八、三二一	二、〇五四、一八五	四	三〇
北滿特別市	二一、四八五	一一三、五三九	三、三五六	一三、七九三
新京特別市	二二、五七〇	一一三、〇三三	一	一
哈爾濱特別市	五八、五七一	二九五、三六五	一	一
興安東分省	一六、二一六	九七、三〇〇	一	一
興安南分省	八五、〇六六	五二〇、四〇〇	一	一
興安西分省				
興安北分省				
全 國			九二、五七六	五六六、四七一
奉 天 省			一三、〇一六	九七、一〇三
吉 林 省			七四、一六八	四四五、二一二
黑龍江省			八九五	四、二八三
熱 河 省			四	三〇
北滿特別區			五三二	三、〇三六
新京特別市			五六三	二、七五三
哈爾濱特別市			三、三五六	一三、七九三
興安東分省			一	一
興安南分省			一	一
興安西分省			一	一
興安北分省			一	一

三五

其 他	戸 數	人 口
全 國	三〇、一四七	一三七、〇五四
奉 天 省	三八二	一、八四四
吉 林 省	五〇	一三九
黒 龍 江 省	一〇一	四〇四
熱 河 省	二七	九〇

滿洲國交通概観

滿洲國の國防、治安上は申す迄もなく資源の開発、文化の進展、民度の向上、國力の充實一として國內交通機關の普及に俟たざるものなく、交通路は國土の動脈として國民生活、國家繁榮の基調を爲すものたることは贅言を要しませぬ。唯に國內のみならず更に進んで國際交通路の整備は四隣各國と經濟的關係を益々鞏固にし密接離るべからざる關係を生ぜ

北滿特別區	七、九四〇	三一、九九二
新京特別市	二八七	一、五二三
哈爾濱特別市	二〇、四一九	九五、六三七
興安東分省		
興安南分省		
興安西分省		
興安北分省	九四一	五、四二五

關東軍交通監督部 大 村 卓 一

しめ交通貿易の進展を促し各友邦との提携を確立せしむるに至る所以であり、此際日滿交通路の擴充は其の最も緊切なるものであります。又現下の對世界關係に鑑み我日本と滿洲を結び附ける交通網の完成は一日も忽にすべからざる緊急事業であることは申す迄もありません。

滿洲國建國以來陸上交通機關の大宗たる鐵道は勿論空運水

運相併進して滿洲國の動脈は目醒しき發育を見せつつあり。其の急速なる進展は世界各國の驚異的となつて居ります。北鮮の海港に直通する幹線鐵道新京圖們江間の所謂京圖線は本九月一日より愈々本格的に營業を開始しました。多年の問題であつた吉會線も此處に實現して北滿の門戸が愈々日本海に開設せらるるに至りました。

この京圖線は多分來る十月より滿鐵の經營に移るべき清津以北の鮮内鐵道と一貫して、日本海の航運と相連絡し裏日本の諸港と通じ、他日東京新京の兩首都を結ぶ交通時間は現在の七十時間が五十時間内外に端縮せらるるに至るでありません。

更に目下工事中なる哈爾濱對岸呼海線の終端松浦と京圖線中の拉法を結びつける所謂拉濱線も來年早々開通するの運に到らば、呼海線と一貫し、所謂濱黑線でも完成すれば、黒龍江沿岸より哈爾濱を経て北鮮海港に達する約千二百餘軒の大交通路を形成し、黒龍江及ウスリー江を以て包圍する廣袤全滿洲の約四分の一に相當する疆域を背後の經濟圏に收めて

日本海の海港に集注することになります。羅津の築港が五、六ヶ年の後に其の第一期工事を完成すれば既設の清津雄基の二港と共に其の吞吐能力は少くも四、五百萬屯、即現在大連港の有する能力の半分位迄には達するであります。

斯くの如く運輸交通最捷徑路の新設はこれに依つて北滿資源の開發を促進し日滿經濟界の發展を確實ならしむと同時に日本海を通ずる交通経路に依り大連港の輸出入系統に大變革を齎し、爲に大連港の將來は樂觀を許さないと申す方々もありますが、それは杞憂であります。新しき交通路の開設に依り吾か關東州及大連港が其の繁榮發達を幾分でも阻止せらるる様な事は斷じてなく、又斯くの如き事にならせてはならないと存します。

滿洲國の交通機關の目醒しき躍進は鐵道について見て今後十年の中に南北滿洲を通して必ずや現在の總延長六千軒の約二倍位には普及を見るに至るべく、是に依つて大連港の背後地は新なる方面に著しく擴張せられ、既成及未設の交通経路は運輸統制に依りて大連港勢力圏は益々補強せらるるであり

ませう。況や新しき日滿産業經濟政策が其の絡につき南滿の低廉なる石炭を基礎として起りつつある水素工業製鐵其他各種の重工業及近き將來必ずや實現せらるべき棉作農業の發達の如き、背後地産業の躍進は益々大連港の出入貨物を増進する所以であり、其の長き歴史と完備した商取引機關とを併せて大連の抜くへからざる強味であります。又目下東京に於て讓渡の交渉中なりと聞く北滿鐵道が愈々滿洲國の鐵道として一貫したる統制の下に經營せらるることになれば、現在大連新京間に實行せらるる急行列車を一步進めて哈爾濱まで直通し大連哈爾濱間を十二時間内外にスピード、アップすることは容易でせうし、斯くの如き優秀なる旅客へのサービスは北鮮海港經由の幹線が假令距離に於て大なる捷徑であつても、(哈爾濱大連間は約九百四軒に對し哈爾濱羅津間約七百五十軒であります。)地勢及施設の點からしても大連線に追従することは無理であります。

以上を考へても大連の繁榮は將來益々洋々たるものであると信じます。

二八

鮮滿を繋ぐ新しき鐵道は京圖線及天圖線だけでなく目下朝鮮側に於ては平壤より國境滿浦鎮に達する鐵道及咸鏡線の吉州より惠山鎮に達する二線の國境鐵道を敷設中であつて、四五年後には完成します。是に應じて當然滿洲國の鐵道網も其計畫を實施せらるるに到り國境を通じて鮮滿連絡運輸上更に新なる捷路が開通せらるべき運命にあります。

斯くの如く輸出入の運送經路が續々として地に其の捷徑を得るに至る以上は當然運賃の低下を招來しますし、又運賃の低廉なることは生産物の販路を維持する上にも農家經濟を向上せしむる上にも必須の要件なれば、今後鐵道經濟の許す範圍に於て海港運賃の調節低下を考へ各海港の共榮を圖るべきは當然で、營口安東等の諸港に對しても同様の政策を採るべきであります。

鐵道に次で滿洲國運輸機關として大切な役割を持つてゐるものは水運であります。水運に關しては近日軍の片村中佐か此處から御話がある筈ですから、詳細は略しますが御承知の如く滿洲國は蒙古察哈爾方面の西部境界を除き國境の三方

悉く水を以て繞らされて居るとも云へます、即ち北は黒龍江本流及其の支流額爾克納河に依り東はウスリー、東南は鴨綠

江、圖們江、而て南に渤海、黃海を控へて居り、疆域内は松花江遼河の兩水系に依る水運の便は申す迄もなく承德を中心とする遼河の水運も見逃すことは出来ません。以上大小河川に依る航運の延長は約六千軒に及びます。即ち現在の鐵道延長と殆んど伯仲の間に在りまして大にしては千七百噸の汽船あり、小は戎克復等の舟運を通じて居ます。之等は孰れも鐵道に先たち滿洲國開發の先驅をなしたものであり又古來民族發祥の素因をなしたものであります。即ち松花江の中流には扶餘の故國があり、其の支流河什河畔には女真族の大金國が起り又清國は圖們江畔に發祥せし等古への滿洲歴史を彩りましたり、或は黒龍江が帝政ロシアの東方侵略を導き更に松花江の航運も其の暴手に歸せしめたことは餘りに近い史實であります。

滿洲國建國以來著々水運行政の實績を擧げ江防警備艦の活躍と航運事業の統制に依り今や水運業は活況を呈し、國內河

川は勿論黒龍、ウイスリーの國際河川に迄進出する定期汽船の運行等漸次確立を見つつあります。

日本は海洋の國であり又山嶽の國であります。滿洲は江山千里大陸の國であります。日本が海水に恵まれて居ると同様に滿洲は江水に富んで居ります。全國の河川を利用し灌溉航運を興すことは農業には旱害を除き更に交通に便するのみならず千里の曠野に景趣を加へて王道仁政の表徴を發揮するに至るであらう。此の意味に依つて南北滿洲の分水嶺をなす此處新京の近域に於ける松花遼河の兩水系の上流を締め切り琵琶湖に匹儔する湖澤を湛へ之を南北兩方に落して滿洲の曠野に大に灌溉を興し地を潤ふして農民の稼業を豊ならしめ併せて水運の便を普及せしむることは滿洲建國第一の意義ある事業であるとして考慮せられて居ります。

滿洲の道路に就ては滿洲國政府國道局の主管の下に幹線道路は著々改修建設中であり、是等の幹線道路工事の進捗に伴ひ滿洲國政府は近く自動車交通事業法を制定して自動車事業の健全なる發達を圖らんと努めて居ります、現に從來交通

不便を極めた熱河方面の如き道路の修築と自動車運輸の進出に依り其の方面の貨客輸送に劃期的進展を來して居ります。

現在滿洲國內の自動車數は大約五千臺位あると稱されて居りますが之は其の廣さに於て約五分の一しかない朝鮮半島の有するものと略々同數なのであります。

自動車路線の延長も朝鮮が約一萬五千料の長さを現在持つて居るに對して全滿洲内では未だ一萬料に達しない現狀でありますから今假りに朝鮮並に自動車網を普及するとすれば其の數に於ても路線の延長に於ても現在の五、六倍以上に達せしめなければなりません。従つて今後自動車運輸業の促進を圖るは滿洲の交通行政上最も肝要なるもの一つであり又之に伴ひ自動車工業の確立を圖るは日本に取つて最も大切な當面の事業であります。

航空事業に就ては昨年九月、日滿合辦の滿洲航空輸送株式會社が成立來國內航空事業は劃期的な進歩を致しました。即ち定期航空線の延長は現在四千五百料に達し日本内地に於ける航空定期路線東京より朝鮮を経て大連迄の路線を加算して

僅に二千數百料でありますから、滿洲の現在航空路は其の二倍餘りになつて居ります。

重要な航空路としては新義州及大連に於て日本航空輸送線の内地線に連絡し奉天を経て新京、哈爾濱、齊々哈爾、滿洲里に延びたるものや又新京より間島龍井村に結ぶもの哈爾濱より松花江沿岸の佳木斯、富錦に達するもの或は齊々哈爾濱より黒龍江岸の大黒河に延び竝に錦州より熱河方面にも定期に飛行して居るのであります。

滿洲航空路は將來北西に進展させて西比利亞線（これはソヴェートの經營するものでありますが）に連絡して歐洲へ直通させ南部は北京天津南支方面を結び更に中央亞細亞に連絡せしめ世界航空路の擴充に寄與するは滿洲の空運交通當然の使命であると考へます。

滿洲の飛行機旅行は大陸の平衡氣象に幸ひせられて頗る安全平穩であります。よく内地の方々から承るところです。「飛行機に乗るなら滿洲で乗れ揺れず安全だ」と内地で危んで居られた方が滿洲に來て初めて乗られると申すことも度々伺

ふことでもあります。

以上の如く滿洲國の交通機關は我忠勇なる陸海軍將兵の意氣に倣ひ其の建設開發に従事せる日滿同胞諸士の犠牲的努力に依り其の技能と精神力の結晶として陸に空に河に驚異的躍

滿洲に於ける採金事業

滿洲は金特に砂金の産地として有名でありまして其の分布區域は極めて廣茫に亘つて居り吉黒兩省は特に古くから知られて居る地方であります。奉天省、熱河省も其の山地方面には金山及砂金産區が各所に存在して居ります。相當古くから採金されて居りますが其の方法が幼稚であるのと匪賊の脅威交通の不便、氣候不良、物資欠乏、舊軍閥官憲の惡政等種々の關係で未だ各方面とも未採掘未發見のものが多く存在し巨額の埋藏量があると謂はれて居ります。固より正確なことは詳しく調査して見た上でなければ分らないのであります。或る外國の學者は約五十億圓と推定して居るものもあります。

進を見せつつ新興國建設の先驅となり基となりつつあります。茲に此の御話を終るに臨み之等建設事業に従事せられて尊き人柱となつて斃れられたる方々に對し皆様と共に悲しく敬意を表し度いと存するものであります。

關東軍務部 井 上 中 佐

さて建國勿々の新興滿洲國に取つて以上の如き多くの金産地を有つて居ると云ふことは何よりも強味とする所でありまして一日も早く合理的に之を開發することは經濟建設上極めて必要なことで各種産業中特に緊急な事業であります。而して従來は常に幼稚な方法で濫掘をなし折角良い産區もめちやめちやにし埋藏量の一部分丈け手取り早く取易い所のみを取り散らして多くの殘量を有しながら後からでは如何に科學的方法を施さうとしても經濟的に稼行し得ない様なことになってしまう。

即ち折角の寶も其の儘地下に埋もらして置かねばならない

と云ふ様なことになる場所が多い許りでなく、爲政者の監督も不十分で盗掘をされたり更に密輸出をなす者が澤山あつたり無統制極まる状態でありましたので事變後建國と同時に採金事業は是等の弊害を除去し合理的に開發する様指導することを主目的として國家の統制下に置かれることになつたのであります。之が爲事變後暫定的に正確なる既得權を持つて居る者以外は新礦業法が出る迄は鑛業權の出願は固より既得權と雖權利の移轉即ち賣買讓渡等を禁ずると共に一方に於ては新礦業法の完成を急ぎ又全滿に亘る金の開發方針を研究し既に新礦業法も近く發布されんとする運に至り開發要綱も決定されまして一日も早く其の實現を見る様努力されて居るのであります。同時に他方に於ては金の輸出禁止令及産金買上法も既に發布せられて居りまして金の買上機關も出來著々其の陣容を充實整備され様として居る有様であります。

金の開發方針の要領は大體に於て國有區域及自由開放區域に二大別して考へられて居るのであります。其の概要を申しますれば次の如くになつて居るのであります。

第一、國有に屬すべき區域に就て

國有に屬すべき區域は興安省の北部及黑龍江省、吉林省でありまして此の區域内のは金山も砂金鑛も既得權を認められて居るもの以外は全部國有でありまして現在未發見のもの即ち將來探鑛調査の上發見せられるものでも個人には鑛業權を與へないことになつて居るのであります。而して此區域の大部分稍々詳しく申しますれば興安省の東分界と北分界の地域及吉黑兩省中の三十數縣に亘る地域であります。此の地域内の開發は國家の代行機關として半官半民の一大特殊會社を作つて此會社にやらせることになつて居ります。何分北部滿洲の大部を此會社に開發させるのでありますから廣い區域全部に亘つて隅から隅までどこもかしこも此會社が凡て直營すると云ふことは甚だ困難であり勢ひ開發も遅れることゝなりますので地方によつては會社は滿洲國政府の適當と認むる者に鑛區の賃貸或は經營の委託をすることとなる筈であります。尙其ればかりでなく全鑛區發見の爲に適當な獎勵法をも講ぜられることになつて居る

ます。

第二、自由開放區域に就て

次に自由開放區域に屬して居りますのは奉天省、熱河省及興安省の殘部でありますが此區域内に於ても若干の國有礦區がありまして其れを除く以外のものは一般に自由企業をなし得る區域として開放されるのであります。未だ出願は受付けぬことになつて居りますが新に礦業法が發令され次第此法令に基いて隨意に出願し許可の下り次第企業し得るのであります。

尤も自由企業とは申しまでも産出した金は勝手に處分し得るのではなくて凡て滿洲國政府に買上げらるべきことは勿論であります。

以上の如く二様の區域に大別されますが特殊會社の開發すべき區域以外の國有礦區は之亦政府の適當と認むる企業者に聽て委任經營又は貸貸することになるものと思ひます。

最近金の採掘或は金礦の調査希望者が著しく増加して居る様子でありますが是等希望者は前に述べました開發要領を承

知せられると共に礦業法の發令に注意せられ可然處置せられることが必要と存じます。

尙採金事業に就ては礦業法以外に更に統制事業たる關係上所要の教令等が出ると思はれますから其の點も亦豫め御注意して置きたいのであります。

或は單に臆測だけかも存じませんが採金希望者又は此の企業に對する投資希望者中には此の事業を以て一攫千金のものであるかの如く考へて居る人がある様に見受けられますが若しそうだとすればそれは大變な誤りであります。

先般日本内地で滿洲の採金を目的とし十割或は二十割割からの配當額確實なりと公表して株式を公募し百萬圓の會社を口論見殆んど出来上つてから確固たる事業計畫もなしに事業地面も不確實な礦區の調査に來た様なものがあり可成の問題となつたことは既に新聞で御承知の方もあることと思ひます何と申しましたも金礦の如く地下に埋藏されて居るものは果して幾何の利益が上るかは餘程綿密な調査をしてからでなくては判らないことでありまして悪いブローカーや利權屋等の

甘言に引掛つて無計畫に投資等をしますと飛んでもない失敗を招くことになりまますから此點は特に要心して戴きたいのであります。

所謂滿洲氣分に乘じインチキ利權屋が色々な事業に對し皆無とは申されません。滿洲國政府も軍も常に此等の者に對し嚴に取締はして居るのであります。が事業家投資家方面に於ても自ら御注意を願ひ度いのであります。何の事業に拘はらず基礎調査を十分にしておくらねばならないと思ひますが採金事業の如きは特に其の必要が大であります。

御參考迄に軍の關係して居ります金礦調査の概要を申し上げます。

軍に於ては滿洲國の依頼に依りまして採金事業調査部なるものを軍特務部長の監督下に編成し此の春以來松花江下流地方及大黒河方面に合計四個の調査隊を派遣して居ります。

一隊は日本人約三十人乃至五十人之間に同數以上の滿人を加へて編成し多くのボーリング用試錐機並に其他技術的諸機械は固より天幕寢具と云つた様な宿營用具數ヶ月間分の糧食暨

三四

療用品等は申す迄もなく更に自衛川各種裝備迄も整へて奥地に分け入つて居るのであります。何分治安の關係や地方の住民稀なる爲物資欠乏否弊る皆無に近いと云つた狀況で以上の如き大掛りの編成で出かけたのであります。各隊の困難は連も言葉では説明し得ない程でありまして其の一例を申しますと澤山な輸送物を携行して居るのですが道らしい道は無く馬車駄馬も意の如く集まらず奥地に分け入るだけでも途方もない困難をなめたのであります。又氣候は夏でも晝夜に依り非常な激變がありましてひどい時には一日中の溫度の差が華氏の五、六十度に達するのであります。又北滿に於ける夏季の名物とも云ふべきアブ、ブヨに絶へず悩まされますし水は悪し野菜は欠乏し其他新鮮な食糧は不足しますので従て餘程丈夫な者でも可成り疲勞するのですが、加ふるに赤痢が至る所流行し殆んど調査員全部一ぺん通は烈しい下痢病に罹つたと云ふ様な有様でありました。加ふるに匪賊の襲撃に會つたり連も非常な困苦と戦つたのでありまして遂に數名の犠牲者を出した様な有様であります。御承知の様に北滿地方は緯度

の關係で夏季中の時間が大變長く此度出かけました調査地方では一番日の長い時には朝は午前二時頃から夜は午後十時頃迄も明るいそうあります。つまり夜間と云ふのは約四時間位しかないのであります二十時間近くも焼く様な炎熱に苦しめられた揚句涼しかるべき夜、晝の疲を休ますべき夜は僅に四時間而も涼しさを通り越して寒いのでありますから今更に此の調査に従事した人達の辛苦の程が察せられるのであります。調査隊の一は既に可成り立派な礦區の發見を土産として歸還しました他の三隊も夫々近く歸つて來ることになつて居りました其の成果は歸還の上でなくてははつきりしません。夫々相當の成績を収めて居ります。此の間實に出發以來五ヶ月準備期間を入れますと可成り長い時日を要して居るのであります。而も周到の準備と非常な困苦と莫大な費用との賜に外ならないのであります。今年の調査は吾々に實に貴重な經驗を與へて呉れました。此の經驗は今後の調査計畫上非常に有益な參考となることと思ひます。

いきなり非常に有望な礦區にぶつかるとは萬一の僥倖と

してはあり得べきことではありませうが、こんなことは常に調査上の標準とすべきものではなく事業着手迄には周密な調査と計畫とを必要とし可成り多くの資本を要するものであります。徒に滿洲熱に浮されて無計畫に飛び出して來ることは誠にめねばならぬことであります。

滿洲探金事業調査部の仕事は前に申しました半官半民の特殊會社たる探金會社の爲の準備作業でありまして會社が出来次第本年調査の結果に依りて事業計畫が立てられる譯であります。以上で滿洲に於ける探金の事業が如何にして開發されるのか又一般事業家の進出し得る範圍及注意すべきこと等を申上げましたが最後に更に重ねて次のことを申述べ度いのであります。一國に於ける金の保有高が財政及現代經濟戰上の基礎となるべきことは茲に申す迄もないことでありまして前に述べました如く、建國勿々の新興滿洲國に取りては經濟建設上一日も早く地下に埋藏されて居る金を最少量に迅速に掘出すことが急務であると信するのであります。

吾々關係者の最も要望する所は在來滿洲で行はれて居る様

な舊式で能率の上らない砂金の採掘法淘汰法や金礫石精練法の如きものでなく科學的能率の優秀な方法を用ひ砂金の如きは土法即ち手掘のみならず採金船の如き大規模の機械掘も各所に見られる様になることであります従て斯の如き優秀な技術と經驗とを有する眞面目なる企業家は、手を擧げて歡

迎する所でありまして新礦業法の發布と共に一日も早く進出されることを望みます。
之で私の話は終りますが尙滿洲の採金事業に就て御不審の點がありましたなれば軍特務部か滿洲國實業部へ御照會を願ひます。

三六

滿洲大豆の當面の問題と其對策

關東軍持務部員

商工事務官 菱

沼

勇

滿洲の特産物の大宗は云ふ迄もなく大豆であります。大豆はただに滿洲特産物の大宗である許りでなく、實に滿洲の經濟力の源泉をなすものであると云つても、過言ではないのであります。滿洲の大豆の生産額は、世界の大豆の生産額の三分の二を占め、而もその八割位迄は或は大豆のまま、或は加工品として外國に輸出されてゐるのであります。

昨年大豆並にその加工品の輸出價額を見ますと、大豆が約一億四千四百萬海關兩。豆粕が六千六百萬海關兩豆油が二千五百萬海關兩で、合計二億三千五百萬海關兩であります。之を圓價に換算しますと、約三億六千六百萬圓に達して居ります。而して滿洲に於ける昨年の總輸出額は三億八千四百萬海關兩、圓價に換算しまして五億二百萬圓見當でありますか

ら、大豆並其加工品の輸出額は、總輸出額の六割一分を占めて居るのであります。之を日本に比較しますと、日本の輸出品の大宗たる生糸と綿糸布を併せても日本の總輸出額の四割五分見當に過ぎないのであります。滿洲の大豆が如何に滿洲の輸出貿易上主要なる地位を占めてゐるかがわからうと思ひます。斯くの如く大豆並其加工品が滿洲輸出貿易上極めて

重要なる地位を占めて居る許りでなく、大豆の生産は工業製造品と異りまして、滿洲人口の絶對多數を占むる農民によつて行はるのであります。大豆の賣行如何は直接滿洲國民全体の生活に多大の影響を與へるのであります。即ち、大豆がよい値で澤山賣れば、滿洲國民の生活を富まし、國の經濟力を高め、外國品に對する購買力も増大するのであります。が、大豆の値が下つて而も賣行が悪ければその逆の結果を來すのであります。

ところで今年の大豆の收穫高はどの位あるかと申しますと、約五百二十萬屯と推定されて居りまして、昨年と比較して二割以上の増産となつてゐるのであります。尤も昨年は北

滿の水害等の關係から例年に比較しては不作の年ではあつたのであります。が、従前の年に較べましても、今年のやうな收穫のあつた年は一昨年を除いてはないのであります。此の澤山生産された大豆を農民に取つてよい値で充分賣りさばくと云ふことに就きましたは、相當困難なる事情が横つてゐるのであります。

その困難なる事情は大体に於て二つあるのであります。その一つは外國に於ける輸出市場の情勢が樂觀を許さぬ状態にあると云ふことであります。

大豆の輸出市場として最も重要なのは獨逸でありまして、滿洲より輸出される大豆の四割乃至五割は獨逸に仕向けられて居り、昨年は約百十七萬屯を獨逸に輸出して居ります。然るに獨逸に於きましては、既に新聞紙等により報ぜられて居ります通り、今年になりましてから種々なる方法によりまして輸入制限策を講じて居るのであります。全体獨逸は斯の様な多量の大豆を輸入して何に使つてゐるかと申しますと、主なる用途は二つあるのであります。その一つはマーガリン即

ち人造バターの原料となるのでありまして、他の一つは家畜飼料として豆粕の原料となりますのであります。

獨逸に於けるマーガリンは、大豆を原料とする許りでなく、北歐より輸入せらるる魚油が極めて價格低廉なので之亦その原料として使用せられるため、マーガリンは廉價に販賣せられ、漸次天然バターの販路に食入り天然バターの價格を下落せしめると共に、その消費量の減少を來すに至つたのであります。然るにヒットラーが獨逸宰相となりましてから、從來の主張たる農民保護政策を徹底するため、本年三月マーガリンの生産制限を強制しまして、約五割方の減産を行はしむると共にマーガリンを含む油脂類を政府の管理の下に置き、外國産マーガリンに對する輸入税を百キロ三十馬克から七十五馬克に引き上げ、マーガリン其他の人造食用油脂に對し一封度二十五ペニツヒの消費税を課してマーガリンの價格を高め以て天然バターの價格鈎上並消費増進を圖つたのであります。

又豆粕に關しましては、一般に油粕が家畜飼料として、玉

三八

蜀黍其他の穀物の販路を漸次侵して參りましたので、本年六月油粕を政府の專賣に移すと共に、國産並輸入の油粕に專賣税を課し、その税率は今年の七月十九日以降屯當り六十三馬克とされてゐるのであります。獨逸の右に述べましたやうな大豆の間接的輸入制限策は來年一月九日迄實施されることになつて居るのであります。實施期間滿了後如何なる政策を獨逸が採らんとするかは今の所はつきり致しません。

獨逸の斯る政策が滿洲大豆の輸出上相當の影響を及ぼすべきことは申す迄ありませんが、唯一般にその影響は多少過大視されてゐる様であります。獨逸の油脂工業は同國に取りまして極めて重要な工業の一つでありまして、獨逸の輸入する原料品の中で油脂原料は金額から申しまして實に第一位を占めて居ります。且其製造品たる油脂並油粕は國內に廉價なる食料品並飼料として提供され、一般消費者に利益を齎して居る許りでなく、その一部分は歐洲諸國に輸出されて居るのであります。油脂の如きは獨逸の重要な輸出品の一つであります従て獨逸としてはその原料品は今後其相當輸入し

なければならぬものと云はなければならぬのであります。

地方に於きまして獨逸の従來輸入する油脂原料中大豆は重要な地位を占めてはおりますが、油脂原料總額中金額にしまして三分の一見當を占めておる程度でありますから、努力の如何に依つては他の油脂原料、例へば落花生とかリンドンとか棉實とかの販路に食入ることは必ずしも困難ではないのであります。

之を要するに、獨逸の大豆輸入制限策は、その影響を輕視して樂觀することは固より宜しくありませんが、さりとてその影響を過大視して之に脅え滿洲大豆の市價の上に不自然なる下落を招致することは避けなければならぬと思ひます。

次に滿洲大豆に取りまして、獨逸に次で重要な市場は日本と支那でありますが、昨年十月から本年九月に終る昭和八年度と昨年同期との輸出額を比較して見ますと、日本向は今年度約四十萬屯で前年に比し十萬屯減少して居り、支那向は今年度約十萬屯で四十萬屯の減少となつて居ります。豆粕に

就て申しますれば日本と支那とは最も重要な市場でありまして、兩國だけで滿洲輸出豆粕の九割見當を占めて居るのであります。その本年度と昨年度との輸出額を比較して見ますと日本向に於て二十四萬屯、支那向に於て二十三萬屯をそれぞれ減少して居ります。即ち、大豆と豆粕とを合計して見ますと、日本向は本年度に於て前年度に比べ三十四萬屯減、支那向は六十二萬屯減となつてゐるのであります。

その激減の原因を考へて見まするに、日本に於ては、農村疲弊と人造肥料の壓迫に因る豆粕肥料の需要減退並國內大豆の増産に基くものであり、又支那に於きましては、従來滿洲産品を國內品として扱ひ輸入税を課してゐなかつた支那が昨年秋から新に輸入税を課するやうになつた事並に南支長江筋の購買力不振等に基因するものと思はれます。尙支那につきましては、昨年度に於て例年に比し特に輸出が増進したために本年度の輸出減少が一層目立つといふ事情もあるのであります。

問題は來年度即ち今年の十月以降一ケ年に於て、滿洲大豆

大豆粕の重要市場たる日本及支那に、何れだけ輸出が行はれるかであります。之か豫想をなすことは固より困難であります。種々の材料よりして見るに、來年度に於ける日支兩國に於ける大豆及豆粕に對する需要が本年度以上に減退することとは先づあるまいと思はれるのでありまして寧ろ幾分の増加をみるに至るのではないかと考へられるのであります。

第二に大豆に關しまして悩みとなつてゐる問題は銀高といふこととあります。昭和六年を中心としてその後兩三年滿洲大豆の輸出が激増してゐますが、これは銀價の低落といふことが一つの重要な原因をなしてゐるやうに思はれます。銀價は昭和四年の二十片臺から、五年には平均十七片見當に迄低落し、六年には十二片臺に迄つるべ落しに下落して居ります。一方大豆は昭和六年に未曾有の大輸出が行はれたのでありまして、恰も現時日本に於て圓安の關係で輸出が激増してゐると同じ理由に基くものと謂ふことが出来ませう。然るに昭和七年頃から銀價も漸次恢復し、最近に於ては十八片臺となつて居り、他方大豆の輸出も七年以後多少減退の氣味に

四〇

あります。更に之を市價に就て見ますと、鈔票建即ち銀建に依る大連相場は昭和六年には百斤大體六圓以上であつたものが、七年には五圓臺となり、本年になりましてからは四圓臺となり、最近では動もすれば四圓を割らんとしつつある右様であります。

尙滿洲の國幣の價値が銀價と離れたものであるならば、生産者に對する影響は自ら別なものでありますが、現在のところでは國幣の價値も大體銀貨の騰落に追隨してゐると云ふ状態でありますから、産地の國幣建の大豆の相場も著しく下落を來してゐるのであります例へば最近の克山に於ける相場を見ますと、一石當り國幣の四圓五十錢でありまして、昨年同期の相場九圓七十五錢に比較すると實に半分以下に暴落してゐるのであります。大連に於ける相場は、最近二割三分見當であります。奥地に於ては五割以上になつてゐる理由に就きましては、大連に於ける大豆の市價には運賃其他の中間経費が大きな部分を占めてゐることに基くのであります。本年の大豆出廻最盛期になりましたも尙産地の相場が斯

1700

くの如き低落を續けて居りましたならば、滿洲特に北滿の農村は實に深刻なる打撃を受くることとなるのであります。

此處に於きまして、出廻期に於ける産地の大豆價格の下落を出來るだけ防止し、農民の受くべき打撃を緩和しその利益を擁護するの必要が痛感されるのであります、只此處に一言しなければなりませんのは、滿洲の大豆は大部分が外國に輸出されるのであります、輸出市場に於きましては當該國並第三國産の大豆並他の油脂原料と競争關係に立つのでありますから、その國に對する大豆の輸入價格を高めるといふことは到底不可能であるといふことであります。従つて大豆の産地相場の下落を防止するに就ての第一の狙ひ所は、大豆取引を合理化し種々なる中間經費をなるべく軽減するといふことであります。第二の狙ひ所は、貨幣價値の騰貴を抑制して國幣建に依る價格の下落を防止する、換言すれば通貨の供給を潤澤にするといふことであります。第三の狙ひ所は、實際の需要關係をかけ離れた不自然なる市價の下落を防止するといふことでありますと申しまする意味は、如何なる商品に限ら

ず、需要關係の多少の不均衡が生ずると實際の相場は、その需要の不均衡の割合以上に激しく騰落するの傾向があります。が之は生産の時期が一定し而も生産調節の困難なる農産物に於て一層甚しい様であります。この現象は一つの勢であつて或る程度止むを得ないことかもしませんが、その主たる原因は一度供給過剰の事實が判明すると、生産者は一度期にその手持品を賣急がうとあせることに基くのであります。殊に生産者が金融上逼迫して居つて持ち耐える力のない時には一層甚しいのであります、滿洲の大豆に關しては斯る事情に在るものの如く思はれるのであります。更に第四の狙ひ所としては、積極的に輸出の増進を圖るといふことであります。即ち外國市場に於ける大豆並その加工品の需要を喚起して、多量の輸出をなすことに依つて、大豆價格の下落も或る程度防止することが出來るのであります。

以上の如き見地から、目下滿洲國政府並關係方面に於きまして、種々對策を考究中でありまして、その詳細に就てはまだ發表の時機に至らぬものもありますが、その一つと致しま

しては既に滿洲國側より發表のありました通り滿洲に於ける大豆の最大生産地であり且農民が最も困窮して居ります黒龍江省内の大豆集散地に各縣の特産共同販賣會を設置して大豆の保管及委託販賣を行はしむると共に滿洲中央銀行をして特産金融に當らしむることとなりました。特産共同販賣會は一定地域内の農民を以て組織する自治的機關とし、主として齊克沿線、呼海沿線の各縣に設置されることとならうと思ひます。

此の特産共同販賣會は、農民の收穫したる大豆を依頼に依り保管し、保管したる大豆に對して保管證を發行し、中央銀行はこの保管證を擔保として資金の融通をなすのでありまして、利息は月七厘であります。又特産共同販賣會の監督並指導機關として、黒龍江省公署内に特産貸款管理委員會を設け各縣の縣公署内に縣分會を置くことになつて居ります。管理委員會本部の委員長は省長を以て之に充て、省公署の關係官中央銀行當局者等を以て委員とし、又縣分會は縣長を委員長とし縣參事官、縣農會長、縣商務會長、鄉村長等を委員と致

四二

します。即ち大体に於きまして、今春、春耕資金貸出の際設けられたる組織を踏襲したる委員會が設けられることなるのであります。

以上の趣旨は、特産共同販賣會の制度を設け之を利用することに依りまして、特産金融の途を拓き農民の資金を防ぎ兼ねて特産取引の合理化を圖り、一方特産資金を通じて通貨の潤澤なる供給を圖り、以て大豆相場の不自然なる低落に因り農民の打撃を受くることを防止しやうといふのであります。

次に大豆其他の特産物並其加工品の輸出促進を圖ると共に、特産取引の中心たるべき機關としての滿洲特産中央會を設置する方針であります。従來滿洲には特産物に關する統一的、綜合的の機關が缺如して居りましたので、新に日滿合作、官民合同の一大機關を設置することが適當と思はれます。滿洲特産中央會の業務としては、特産物及其加工品の紹介宣傳輸出市場の調査並新販路の開拓、特産物の利用の研究實驗等積極的に輸出の増進に努むるのみならず、特産取引の改善、合理化の研究及實施、特産物の検査制度の改善及統一

をなす等でありまして、滿洲經濟の源泉とも謂ふべき特産物が大なる難關に遭遇してゐる今日、此種の國家的機關を設置

することは特に必要であると思はるゝ次第であります。

滿洲特別自衛移民の現況に就て

關東軍特務部 小河正儀

私は只今御紹介の小河拓務書記官であります、只今から滿洲特別自衛移民の現況を御話し致します、滿洲特別自衛移民は現在第一次移民及第二次移民の二つに分れて居ります第一次移民は東北十一縣の在郷軍人中より選抜して組織し昭和七年十月三日東京を出發して渡滿したのであります。第二次移民は東北、北陸、關東十九府縣の在郷軍人より選抜して組織し本年七月六日東京を出發し渡滿したのであります。

一般には兩者を併せて佳木斯移民と呼んで居ります、佳木斯と申しますのは吉林省樺川縣に在つて人口三萬位も有る可成繁華な町で松花江沿岸の特産物の集散地であります。此の地に昨年十月十四日第一次移民が上陸して本年三月末移住地に入植する迄約五ヶ月の間冬營をしたのであります、第二次

移民も佳木斯に上陸して移住地に入りましたし又兩移民團共外部との交通聯絡を此の地で致して居りますので斯様に呼ばるゝに至つたのであります。

佳木斯には昨年の大水害以來三姓から歩兵第〇〇聯隊の一部が移駐して居りますが第一次移民は上陸以來冬營中此の町の一部の警備の任に當つたのであります、現役部隊は時々匪賊討伐に出掛けたのであります。其の間は町全體の警備の任に當つたのであります、防寒具絨給養も十分ではありませんので零下三十度の酷寒中に於ける警備勤務の苦痛は一と通りではなかつたのであります。少數ではあります。此の間意思の薄弱な團員中に挫折したり身を誤るものゝ出ました事は遺憾千萬であります。

世間では冬營を目前に控えて渡航するのは其の時期を誤つて居るとの意見を聞くのでありますが現移住地に到る交通は松花江の水運に依るの外はないのであります、同江は十一月より翌春四月中旬迄結氷して航運が杜絶するのであります、一方滿洲の農業は解氷と共に蒔付をしなければならぬので従つて解氷後の第一船で渡航致しましても其の年の蒔付をすることは到底むづかしいのであります。

春の耕作をする爲めには是非前年の結氷期前に松花江を下流しなければならぬのであります斯様な理由で冬營五ヶ月の艱難は十分承知の上で十月中旬佳木斯上陸の計畫を樹てた次第であります。

佳木斯より南々東十五里許りの處に水豐鎮と云ふ百戸位の一寸した部落があります此部落の東方一帯が第一次移民の移住地であります、永豐鎮の南々西六里許りの處に湖南營と云ふ百五十戸位の部落があります其の東方一帯が第二次移民の移住地であります。移住地に行く現在の交通路は哈爾濱から松花江を船で下るのでありますが相當な汽船が一週三四回往

復して居ります、哈爾濱佳木斯間は百三十邦里許りで下航二日程週航三日程であります。

四四

佳木斯から移住地迄は支那馬車で永豐鎮迄二日程永豐鎮より湖南營迄一日程であります現在では移民團の荷物輸送の貨物自動車が毎日往復して居ります、之が唯一の交通機關で私共一行も此荷物の上で播られて參つたのであります

現在は斯様な不便な處でありますから物價も賣るものは安く買ふものは高いのであります屢々何故に移住地として交通至便な南滿地方を選ばずして北滿邊陲の地を選びたるや人の往復の不便は尙忍ぶべきも生産物は廉く日用品は高し是では移民の採算不可能なり採算を無視したる特殊使命を有する政策移民なりやと云ふ質問を受けるのであります然し南滿地方は人口の分布も比較的に密でありまして河川沿岸の氾濫地が不毛の土地でない限りは殆んど耕され盡して居ります

従て地價も高く鐵道から一日行程位の處で反當り四、五十圓を唱へて居ります、之では到底普通農家、經濟として立ち行く見込なく且つ先住者との交渉複雑で土地を得ることも容

易でないのであります。由つて移住地選定の條件としては「土地肥沃にして地價廉く未耕地歩合多く先住者少く且近き將來に於て交通の便の開ける見込のある處」と致したのであります。永豊鎮及湖南營附近は表土深く、滿洲に於ける最も肥沃の地帯で既耕地は全可耕地の十分の一に及ばず従つて地價の如きも南滿地方の十分一程度で先住者との關係も解決容易であります。又交通の點も現在是不便であります。三、四年後には京圖線中朝鮮國境から分岐して北上する滿洲國の國有鐵道が移住地の附近を通過して開通する豫定であります。其の隣には移住地より朝鮮の海港に至る距離は新京から大連に至る距離と略同一になるのであります。移民は移住後二三年は漸く自給自足し得る程度でありまして漸次生産額を増加して販賣の要ある時となれば交通便利となる豫定であります。此の如き條件を考慮した上で經濟上最も有利な地點として此の移住地を選定したのであります。本移民は治安の現況より見て自衛の方法は講じて居りますが純粹の經濟移民であります。移住後二三年は苦しいが先は有利で希望のある移民であります。

す。若し強いて何等かの國策的意味ありとしますれば後續大數の邦人移民の試金石且つ先驅者たることでもあります。

次に移住地の概況を申し上げます。第一次移民の移住地を永豊鎮地區第二次移民の移住地を七虎力地區と呼びます。永豊鎮地區は永豊鎮東方の盆地と其の周圍の丘陵地一帯で區域は南北狭きも二里、東西六七里に亘り總面積凡そ三萬町内可耕地一萬町歩位であります。

地區の中央を南柳樹河と云ふ小さい河が東から西に流れて永豊鎮部落の西南端で北から流れて來る鐵嶺河と云ふ小さな河と合して居ります。南柳樹河の兩岸と鐵嶺河の左岸が農場地區であります。鐵嶺河の左岸に南から北に茨城、栃木の二部落、南柳樹河の北側に西より東に群馬、新潟、長野、北大營及岩手の各部落、南柳樹河の南側に西より東に福島、宮城、山形、秋田及青森の各部落があります。中央の長野、新潟兩部落の中間の間に鎮守の社廟榮神社を造營し本月十五日に鎮座祭を兼ね大祭を執行した筈であります。移民運も非常に勢ひ込んで居りましたし丁度當日家族呼寄せ歸た人々も家族同伴

で歸村したことで嘸賑はつたこと、想像致します。

各部落間の距離は遠さも半里近きは四、五町位でありますから御互に招呼の間にあります。

區域の東北隅此附近で一番高い七星子と云ふ山があつて其の麓には葉樹の密林があります、又東南隅は青咀と云ふ山で其の麓には千古斧鉞を入れぬ針葉樹林があります。區域内には石の少ない滿洲で御影石の出る處石灰石の出る處があります、又石炭や砂金の出る處もありますので將來家屋の建築並村の經營の爲めには非常に好都合であります。

區域内は可耕地凡そ一萬町歩の内七、八百町歩が既耕地で残りが未耕地であります其の半が平坦地で平坦地は水さへあれば水田にすることが容易であるが現在の南柳樹河及鐵嶺河の水では精々四五十町歩位の水田が關の山かと思はれます將來地下水利用の調査が好結果を得れば相當の水田が得られると思ひます。指導員に於ては主要食料たる米の自給を計る爲めに永豐嶺南西二里許りの處に別に水田三百町歩を拓いて經營する計畫を建て、居ります、傾斜地も小灌木まばらに有る

四六

程度で開墾には夫程骨は折れぬと思はれます、地味は甚だ肥沃で殆んど凡ての作物が出来野菜等の生育も頗るよく當分は施肥の必要かないのであります。

七虎力地區は湖南營東方一帯で八虎力河以南七虎力河南方岡一帯に亘る地區で南北三里半東西四、五里の間で總面積凡そ二萬町歩内可耕地一萬五千町歩位で既耕地が三千町歩位であります永豐嶺地區と同じく未耕地の半ば稍傾斜地で半は平坦地でありますが河岸の濕地が大分あります之は一部を水田にして残りは排水して畑とし、採草地、放牧地として利用する豫定であります、水田として二百町歩位を得るのは夫程困難ではないと思はれます、地味の肥沃なることは永豐嶺地區以上であります。

第二次移民は本年七月中旬、入植した許で來春から耕作に従事する豫定で今年専ら冬營家屋の建築修繕と來春耕作の準備をして居りますので今は部落構成も専ら警備を主として七虎河を夾んで北側に西より東に頭道溝、四道溝の二部落南側に西より東に家窩棚、七虎力、司令溝、蔡家溝の四部落が

あり其の外に湖南營に荷物運搬の倉庫と病院と蔬菜班とがあります。

部落と部落との距離は隊員を集結して居ります結果比較的遠く半里乃至一里であります。

次に移民團の編成を申し上げます、第一次移民團は青森、岩手、宮城、福島、茨城、群馬、栃木、長野、新潟、山形、秋田の十一縣出身者及日本國民高等學校北大營訓練所出身者を以て一ヶ大隊を編成し警備指導員四名中一名を大隊長として非常警備に備へると共に日常の指導に當らしめて居ります大隊長は新潟縣出身の市川と云ふ豫備中佐で北海道に永く居た事のある人格者で實踐躬行の人であります、右の外農事指導員として駒場出身の山崎と云ふ技師の下に二人の助手が居ります山崎技師は永く滿鐵の熊岳城の農事試験場に勤務し次で朝鮮の農林學校長を勤め自ら其の卒業生を率ひて移住村建設に充つたことのある人であります其の外に醫療の爲めに當初熊本醫專出身の堀江と云ふ醫師が附いて居りましたが二ヶ月前に京城帝國大學出身の上月醫學士と交代致しました、團員

は最初渡航したのが四九三名でありましたが匪害の爲戦死しました者か七名病死者が三名、意思薄弱其の他の理由に依る除名脱退者九十五名追加々入者八名で現在は三百九十六名で約四百名残つて居ります。

第二次移民團は青森、岩手、宮城、福島、茨城、千葉、東京、神奈川、埼玉、栃木、群馬、中梨、長野、福井、石川、富山、新潟、山形、秋田の十九府縣及北大營訓練所の出身者を以て一ヶ大隊を編成し警備指導員四名中一名を大隊長として居ります、大隊長は岩手縣出身の日澤と云ふ豫備中佐の人で元氣一杯の立派な人であります、農事指導員は駒場出身の宗と云ふ技師で其の下に一人の助手が居ります宗技師は永く滿鐵に勤め最近迄公主嶺農業實習所長として親しく移民教育に當つて居た人で滿洲に於ける實踐農業の一方の權威者であります其の外に醫療の爲に永く樺太で醫業に従事された大科醫師が附いて居ります尙第一次と双方の仕事を掛け持ちでありますが關東軍司令部附吉林軍顧問東宮少佐が全體の統制に當つて居ります外獸醫として吉崎農學士が居ります團員は最